

Title	エンジニアリング専業3社の国際戦略
Sub Title	
Author	上田千尋(Ueda, Chihiro) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第670号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0670

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

エンジニアリング専業3社の国際戦略

エンジニアリング専業3社（千代田化工建設、日揮、東洋エンジニアリング）は、海外依存度が高いため、1980年代に入ると、中東産油国における外貨収入の減少や、主要発展途上国における累積債務問題の深刻化によるプラント輸出市場の縮小、および近時における円高の急激な進行等の影響により、その業績が低迷している。

海外市場の動向に係る分析からは、地域別動向として中東、アフリカ地域でのプラント需要が減退傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測される。分野別動向としては、専業3社にとっての既存分野である石油・ガス、化学・肥料両分野のプラント需要が、今後とも縮小傾向にあり、特に石油・ガス分野の落込みが著しい。

競争関係に係る分析からは、専業3社間での競争が最も激しく、日本の競争相手である造船重機系企業、鉄鋼系企業、および外国の競争相手に対しては、既存分野の中東、アジア地域で専業3社が競争上優位にあることが分かった。

以上のような分析結果に基づき、専業3社の国際戦略に対しては、今後とも競争優位性のある既存の分野・地域に注力するとともに、専業3社間及び内外の競争相手を取り込んだコンソーシアムを有効に活用すること、機能的にはソフト面の能力向上を図ること、そして、新規分野としては海外の発電よりも国内のファクトリー・オートメーションを中心とする新規プラントに注力すべきことを提言とした。